

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成26年(2014年)

7月の出来事

～ 地元報道より ～

◆気仙沼市大谷「道の駅」販売部門過去最高の売上高。販売実績は1億 133 万円となり、前年比 150%増となった。

◇サッカー日本代表の長谷部誠主将が、ワールドカップから帰国し手紙で応援した「あさひ幼稚園」に「応援ありがとう」と園児たちに会いに来た。長谷部選手とあさひ幼稚園の交流は、幼稚園建設への1億円の義援金からはじまった。

◇入谷・名足の災害公営8月入居にあたり、予定者によるコミュニティのルールづくりが始まった。

◇八幡川西岸の土地整備計画の地権者説明会開催。整備用地は当初の 24ha から半分に以下に縮小、外れた 15ha の地権者の土地については半分が買い取り対象外となる予定。

規模縮小で旧役場周辺に祈念公園を整備し、旧志津川駅前には 20mの築山を設け町民や観光客の一次避難所とする。

◇歌津のタコ漁の漁船が金華山沖で転覆した。乗組員 5 人全員は無事だった。

◇介護取得初任者研修、今年も開催され 18 人の参加者があり地元の高校生 5 人も含まれる。通常 8～10 万円の費用がかかるが、町からの支援で 1 万円で受講できる。マンパワー不足を負う対策でもある。

◇南三陸町の仮設・みなし仮設の入居 1 年延長に。町には 58 ヲ所の仮設に 1959 戸 4951 人が入居し、みなし仮設は 34 戸 112 人が住んでいる。

◇町でのイベントに「まちの保健室」開設。被災者の健康や、心のケアの相談にあたっている。

志高同窓会に集う

午後 1 時 30 分からの同窓会で新会長に小畑政敏氏が就任し、新役員が紹介された。会長は「魅力ある学校造りに奮闘し、今の志津川高校がある」と挨拶を述べた。

開会にあたり校長の挨拶は教頭の代読で、高校生の学業・スポーツの輝かしい活躍を伝え、今年 11 月 11 日の「創立 9 0 周年」の式典(予定)へのご協力をお願いした。

◇防災集団移転の敷力所に、独自再建などにより空き地ができ、参加者を再募集している。歌津 7 区画、戸倉 1 区画で公募締切りは 7 月 31 日まで。

◇三陸道の小森～歌津白山間の 7.2k の 4 号トンネル貫通式(21 日)

◇歌津平成の森の人気カフェ「あずまーれ」が仮設生活者の憩いの場に。

23 年 12 月から始まったテント型のカフェ、高齢者の知人も増え 1 日 50 人の利用があり、住民の交流の語らいの場として利用されている。

◇志津川高校野球部は宮城県大会 2 回戦で石巻商業に延長 10 回サヨナラでおしくも敗れた(8 日)

◇歌津中野地区の防集造成地で、10 トン大型トラックがタイヤを焼く車輛火災発生(9 日)

◆気仙沼の市税収がアップした。25 年は調定額 62 億 2200 万円に対し 54 億 6500 万円の収納があった。24 年度は 48 億 3100 万円で収納率が 3.5 ポイント上がった。市では毎年 10 億円前後の滞納の整理が進んでいる。

◇志津川小森地区の「シロサケふ化場」の復旧工事はじまる。サケ県内一の南三陸町の復活へ、水産業の復興を加速する。今年の秋サケは震災年度のサケ稚魚放流の不足から、4 割減と関係者は予想している。

◇南三陸警察署は、町内の 57 才男性を下着を盗んだとして逮捕した(10 日)

◇南三陸町臨時議会(16 日)。仮設入居者の退室にあたり、エアコンなどの物品を譲与する条例の制定へ。

◇志津川市街地の「う回路」供用開始の 7 月 30

日に向け工事急ピッチ。

◆気仙沼市立病院の新設にあたり、2 月の入札不調があり、29 年 11 月のオープンを目指し、国への増額分の積増しと増額分の起債(借金)で一時的対応をし、15 日の入札に向う。(70 項目の建設費の増額の見直し)

◇南三陸町においても病院入札を 8 月下旬に予定し、気仙沼菅原市長・石巻市長と共に国への建設費の増額の要望に 15 日に厚生大臣に出向く。(来年 11 月上旬に開院)

◇志津川病院・総合ケアセンター着工式(14 日)

◇社会教育活動のモラロジー研究所の「東北ブロック感謝の集い」が、南三陸ホテル観洋にて東北 6 県から 220 人が参加し、被災地の復興や課題を考えた。

◇12 日午前 5 時に福島沖を震源とするマグニチュード 6.8 の地震が発生し、沿岸に注意報が発令され、唐桑に 1 0 cm の津波を観測した。

◆気仙沼市は復興の進捗状況について「第 10 回市震災復興推進会議」で示した。3 0 年度に住まい確保 100%と市の自主防災・所得などを復興目標を数値で示した。

◆気仙沼高校野球部、岩ヶ崎を 5 対 3 でくだし、ベスト 16 に。8 強をかけて 1 6 日石巻商業と対戦。

◇南三陸ホテル観洋で、本吉復興エコツーリズム協議会と減災・環境学習、語り部プログラム実施についての協定を 14 日結んだ。

◇歌津長須賀海水浴場の海開き(20 日)を前に、地域住民やボランティアが「子供たちのために」と海岸の清掃をおこなった。

◇南三陸町の第 1 号となる災害公営住宅の入谷・名足の入居に合せ、17 戸の空き室の再募集をする。8 月 1 日から募集する(14 日)、8 月 1 日からは入居者が順次入居をする。

◇志津川市街地の土地地区画整備事業(60ha)の換地スケジュール示される。7 月 16 日から 8 月 30 日まで仮換地申し出期間とし、来年 1～3 月に対象者へ個別説明会をして、3 月以降からの仮換地を目標とする。

◆本吉響高校の生徒がフィリピン台風の被災地を訪問した。「同じ被災地だから」と、家庭クラブの部員と他 2 名の 6 人がメッセージと元気を届けた。

◇高校就職戦線が 9 月 16 日から始まる。それを前に地元企業の合同面接会が開催された。「復興を手伝いたい」と高校生も、地元での就職を目指す生徒の数も増えている。

◇夏の観光シーズンを前に、要となる南三陸町観光協会会長の空席が 2 ヶ月を迎えようとしている。不適切な経理処理の責任を巡って協会内で対立が続いている為で、南三陸町の観光にイメージの悪化を懸念する。

◆気仙沼市の水産加工業や食品製造業の市の水道量の使用が震災前の 5 割にとどまり、水産工場などの経済再建の道はまだまだ険しい。

◇東北テコンドー南三陸支部の阿部君(歌津中 3 年)と阿部君(志津川小 6 年)の 2 人が県北の子供として初めて段位を取得した。

◆気仙沼高校野球部 5 対 3 で石巻商高に勝ち、27 年ぶりの 4 強入りとなった。決勝戦をかけて利府高校と対戦する(20 日)

◇天皇皇后両陛下が気仙沼市南三陸町を 23 日・24 日と被災地訪問。地元警察・県警などの警備体制の確認が、通過する道路で実施されている。

「くつろぐはうす・マーガレット」おもちゃの図書館活動拠点完成

7 月 19 日に落成式の時を迎え、1 時 30 分から「おもちゃの図書館いそひよ」の活動拠点としての「くつろぐはうす・マーガレットハウス」で、多くの関係者の参加のもとに、日本聖公会・立教女学院による神式が開催された。「くつろぐはうす」は被災地で暮らす住民の方々だけでなく、南三陸町を応援してくれる多くの皆様に活用してもらふ施設として、一般社団法人南三陸研修センターに管理・運営をお願いする。

2 時 30 分からの完成を祝う会では、南三陸おもちゃ図書館いそひよの代表鈴木清美氏が、これまでの支援から完成までの経緯と、震災後のいそひよの活動を涙ながらの報告となった。来賓には手造りの木製の感謝状を贈った。小泉全国連絡会会長が「新しい出逢いが生まれマーガレットハウスが花でいっぱいになりますように」とお祝いの言葉を添えた。



◆気仙沼高校、夏の夢絶たれる。波に乘れぬまま 1 対 5 で利府に敗れる。県代表には利府高校になる。

◇三陸道の 4 号トンネルに志津川小と伊里前小の「子供みこし」が貫通のお祝いに華を添えた。

◇天皇皇后両陛下が 22 日に南三陸町入り。23 日に「さんさん商店街」を訪れ「復興まで頑張っ」と被災者を温かく励ました。町舎までの道路には町民が国旗を振り、それに両陛下が優しく笑顔で応えてくれた。

◆気仙沼市小泉地区では、高台移転先へ桃の苗木を植樹した。桃の花で観光名所を目的に、「桃源郷」を目指そうと地区民が汗を流した。

◇歌津寄木で、町道の法面が崩れ町道が通行止めに(21 日)

◇南三陸町の農地の復旧工事は、全体で 224ha あり 25 年度は 3 割にとどまり、26 年度末まで 8 割の完了を目指す。町は農機具の貸し出しなどで営農を後押しする。

◇南三陸町水泳記録会(24 日)。14 の大会記録生まれる。

◇志津川湾夏まつり・福興市、26 日開催。テーマは「未来へ つなぐ、夏」。見せろ! 「南三陸の心意気」と南三陸町を全国にアピールした。「日本一のマーチングバンド来町」や「夢メッセージ花火」などの催し物で新漁港は賑わった。

◇町内の 25 年度の造成完了の 5 地区の 6 団地(藤浜・荒砥・平磯・袖浜・港)の防災集団移転の 41 戸のうち、半数以上で建設着工となり、9 月には町内第 1 号の完成となる。今後は使用手続きの簡素化を促進し、早期の入居へと進めていく。

◆気仙沼市、東部児童相談所の 25 年の児童虐待相談は 79 件と震災前の 2 倍となった。震災での雇用不安やコミュニティの変化がその要因となっている。

◇「被災地の現状伝えたい」と東京オリンピックに向け、青森ー東京間の 1 0 0 0 k マラソンが南三陸町に到着した(28 日)

◆気仙沼市・本吉地方の事業所の再建が進んでいない。被災の大きさや土地のかさ上げに時間がかかり、事業所の再建率は県下平均を大きく下まわっている。工事費の資材・人件費の高騰も重なり、4 分の 3 グループ事業の内定を取得しても、事業所建設の土地確保が一番の課題として再建事業所を苦しめている。また、南三陸町においては、店舗付住宅を希望する事業所も多く、高台の土地造成も 28 年・29 年と、事業再建までは遠い道程にある。低地部の商店街形成も、28 年秋からの商店建設があり、造成が終わっても外構工事など、新たな町づくりの早期「町開き」を町民は期待している。

◇南三陸ホテル観洋屋外プール、南三陸町の子供たちにシーズンの間無料開放。

◇全国パソコン大会で「アビバキッズ志津川教室」が団体で優勝し、個人の部でも 2 人が優勝した。入力部門で小学 1・2 年の部では佐藤さん(志津川小 2 年)が 5 分間に 421 打数で優勝し、小学 6 年生の部で阿部君(入谷小 6 年)が 808 打数で優勝した。震災があった中で子供たちが練習に励んでの栄誉となった。他の出場した子供たちも優秀な成績をおさめた。(通常の大人でも 300～500 打数)

◆気仙沼観光受入態勢整備推進協議会では、交流人口の増加へ結束して向うことを誓った。市巡回バスは、25 年度は震災前の水準の 2400 人にもどり、徳仙丈山ツツジの観光客も 643 人と昨年の 5 倍となった。